

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年03月02日

計画の名称	中心市街地のにぎわいの再生と安全安心な歩行空間を確保するためのまちづくり（防災・安全）												
計画の期間	平成31年度～令和03年度（3年間）										重点配分対象の該当		
交付対象	幸田町												
計画の目標	幸田駅前周辺は、かつては町の中心市街地として賑わいをみせたが、幹線道路に歩道がないなど都市基盤は脆弱であり、老朽化した建物が密集する災害に弱い地域であった。そのため、JR幸田駅前の2.9haで土地区画整理事業を行うことにより、幸田駅へのアクセスや通学路である幹線道路への歩道設置・無電柱化に併せ、歩行者用照明灯を設置し夜間も安全で安心した道路（歩行空間）を整備する。また、土地利用としては、商業系利用を推進することにより中心市街地のにぎわいの再生へと繋げる。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	59	A	49	B	0	C	10	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	16.94	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(H31当初)		(H33末)
1	幸田駅前土地区画整理事業地内の1km当たりの歩行者用照明灯設置割合を増加させる。 幸田駅前土地区画整理事業地内の1km当たりの歩行者用照明灯設置状況について調査する。 1km当たりの歩行者用照明灯設置割合＝照明施設の設置箇所数/道路延長（0.87km）	21本/km	本/km	41本/km
2	幸田駅前土地区画整理事業地内の商業土地利用を増加させる。 幸田駅前土地区画整理事業地内の商業土地利用状況について調査する。 商業土地利用面積の増加＝商業土地利用の敷地面積/区画整理区域内の宅地面積	24%	%	39%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中核都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	---------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

幸田町で実施

事後評価の実施時期

事業終了後（令和4年度）

公表の方法

幸田町のホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

基幹事業の区画整理事業を進め、令和2年度にすべての道路整備、令和3年度にすべての工事が完了した。それに伴い土地利用が進み、予想（目標）していた箇所の商業利用が実現した。また、歩道が整理された幹線道路に効果促進事業で街灯を設置したことで、夜間の歩行者の安全対策となった。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

任意の申出換地を採用した土地の共同利用地区（2か所）については、紆余曲折あったものの商業利用が実現した。
一方、町が必ず責任を果たすというものではないが、土地利用が未定（更地）の1か所（3筆・約1,400㎡）の商業利用化に向けてバックアップする必要がある。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	歩行者用照明灯設置割合の増加		
	最終目標値	41本/km	目標を達成
最終実績値	43本/km		
2	商業土地利用の増加		
	最終目標値	39%	目標を達成
最終実績値	39%		

(参考図面)

